

教科・科目		対象学年	単位数	教科書	使用教材
地理歴史・地理総合		3	2	地理総合 世界を学び、 地域をつくる（第一学習社） 標準高等地図（帝国書院）	地理総合ノート（第一学習社） CONNECT 地理総合（第一学習社）
目標	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度
	地理に関わる諸事象に関して、世界の生活文化の多様性や、防災、地域や地球的課題への取組などを理解するとともに、地図や地理情報システムなどを用いて、調査や諸資料から地理に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。		地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係、空間的相互依存作用、地域などに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらをもとに議論したりする力を養う。		地理に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の国土に対する愛情、世界の諸地域の多様な生活文化を尊重しようとすることの大切さについての自覚などを深める。
評価	・ 定期考査やワークシート・レポート作成等の結果や内容から「知識・技能」「思考・判断・表現」を評価する。 ・ 授業中の主体的な発言やレポート等における主体的な論述から「主体的な学習に取り組む態度」を評価する。				
学期	学習内容（単元）		到達目標		
1	地図や地理情報システムでとらえる現代社会 ①球面上の世界と地図 ②国家の結びつきとグローバル化する社会 国際理解と国際協力 ③生活・文化の多様性と国際理解		・ 新聞、インターネット検索などを用いて、身の回りの地図の活用事例について調べることができる。 ・ 地図の縮尺や方位に注意しながら、地図上の情報を読み解く有用性を理解する。インターネットを使ってさまざまなウェブ地図にアクセスし、日常的に使われている GNSS や GIS など、新しい地図表現の役割を理解する。 ・ 交通・通信の発達によって、生活、社会、産業、国家間の関係がどのように変化したかを時系列で理解する。 ・ 現在世界で起こっている国境・領土問題について調べるとともに、日本の領域と周辺国との領土問題にはどのようなものが存在するか、理解する。 ・ インターネットショッピングを事例に、情報技術や物流、金融など、さまざまなサービスがかかわってくることを、実体験とともに考える。		

2	<p>国際理解と国際協力</p> <p>①生活・文化の多様性と国際理解</p> <p>②持続可能な社会を目指して</p> <p>③すべての人々の尊厳と平等が守られた社会に向けて</p> <p>④自然と調和した豊かな社会に向けて</p> <p>⑤現役世代と将来世代のための地球</p> <p>⑥平和で公正な社会に向けて</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・人々の生活様式の差異を通して、地理的環境が及ぼす影響について学ぶ。 ・世界の自然環境は地域的に大きく異なることを、気候の面からとらえる。 ・世界の気候帯ごとに、どのような特徴があり、どのような生活が営まれているのかを学習する。 ・自然環境と社会環境の影響を受けた特色ある生活文化を、様々な衣食住の事例を通して学ぶ。祭りやスポーツ、音楽などの伝統と現代社会の影響を受け、変化が見られる事例を学び、現代世界の諸事象を読み解く視点を身につける。 ・他者の文化を尊重するとともに、自らの文化を知ることが重要であることを学ぶ。 ・地球的課題に注目し、それらは相互に関連し、地域によって現れ方が異なることを、具体的な事例を通して理解する。地球的課題の解決の困難さや、地域差を学習し、その地域性に応じた取り組みが必要であることを理解する。SDGの達成に向け国際協力の重要性を学ぶと同時に、企業の社会的責任等を通して、自らの行動を見直すことができる。 ・持続可能なライフスタイルの実現には、さまざまな認証制度を活用した消費者としての行動が重要であることを理解する。 ・資源・エネルギー問題について、資源の限界性と偏在性を理解し、世界のエネルギー利用の変化と新エネルギー開発の必要性について考察する。 ・身の回りの都市問題に関心を持ち、地域の課題解決に向け学習した内容を振り返ることができる。 ・地球環境問題は世界的な取り組みと地域に 応じた取り組みが必要であることを理解する。世界の中で日本が果たすべき役割を認識し、国際協力について、グローバルに考える視点と身近な問題として考える視点を身につける。 ・NPO や企業による国際協力、消費者の立場で自ら取り組む国際協力など、さまざまな形のパートナーシップについて理解できる。
3	<p>持続可能な地域づくりと私たち</p> <p>①自然環境と防災</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・日本に暮らす人々の生活は、気候や局地的な気候、地形などに影響を受けていることを、実体験に基づいて理解する。 ・降水強度の大きい湿潤な日本の気候環境を把握し、地形に応じた防災・減災のあり方について理解を深める。 ・自らが住む地域のハザードマップを基に、最も起こりやすいと想定されている災害は何か、など、地域の減災に向けて意欲的に取り組む。